

【背景と目指す姿】

- 現在、ねぎの作付けは畑中心だが、連作に近い土地利用状況であり、一部、土壌病害虫の発生により、生育が安定しない。また、作付けほ場は、分散化しており、作業効率が良くない。地区内の水田は、ほぼ米麦が作付けされているが経営者は高齢者が多く、近い将来、離農する可能性が高い。
- こうした事から、排水性が高い水田を中心にねぎを米麦大豆などの輪作体系に組み入れ、作付け拡大することで土壌病害虫をはじめとする連作障害を軽減させ、安定生産につなげる。また、離農する農家の農地を農地中間管理機構等から斡旋を受け、集積、団地化を図ることで機械の利用効率を高めていく。
- 生産量の増大に伴う販路については、加工業務向けなど安定した新たな販路を確保していく。

1 水田における露地野菜販売額

現状(平成30(2018)年度):7,905千円)

⇒ 目標(令和3(2021)年度):58,225千円

2 主な取組内容(令和元(2019)～3(2021)年度)

項目	具体的方策
農地集積・集約化	<ul style="list-style-type: none"> ・構成員の経営者能力の向上に向けた各種研修会等への参加 ・排水対策、石礫除去、水田への適応性が高い品種選定等、水田活用に向けた検討 ・農地中間管理機構の活用による農地集積及び連坦化による排水対策の簡素化
効率化・省力化	<ul style="list-style-type: none"> ・機械化一貫体系の整備 ・過剰投資抑制に向けた機械の共同利用 ・有能な常時雇用の定着に向けた周年作業できる経営(ねぎを中心とする複合経営等) ・JA無料職業紹介所や求人広告等の活用による雇用確保
加工・業務用需要への対応力強化	<ul style="list-style-type: none"> ・県主催の商談会等を利用し、販路を拡大(JA及び市場を通じて出荷) ・需要に応じた取引をしっかりと行うことで取引先との信頼関係を構築

大規模経営体調査



出荷製品

水田への作付